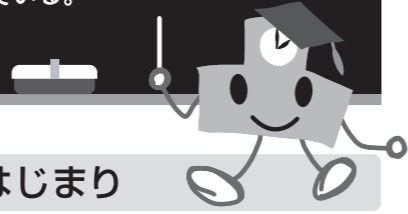


### 小学校の事例 中央区 幌南小学校

# 総合的な学習の時間のカリキュラム、「カミネッコン」を使った植樹活動。

学校の名前がついた「幌南の森」での植樹やその成長を見守る観察をとおして、自然に対する興味を高め、ビオトープの樹林と「幌南の森」の樹木の比較も行っている。森を守ることの大切さを知る取組。



## はじまり 「国民の森づくり」に参加したのがはじまり

本校では、北海道森林管理局が進めている「国民の森づくり」の一環である「遊々の森」植樹活動に3年前から参加している。

総合的な学習の時間で独自のカリキュラムづくりを検討していたところ、森林管理局から植樹活動への参加依頼があり、同時に北大からは、土に埋めると自然に還る容器「カミネッコン」を使った植樹活動への依頼があったことから、その二つを生かした活動を本校の総合的な学習の時間に取り入れた。本校では植樹場所に「幌南の森」と名付け、植樹のほか自然体験や観察などを行っている。



幌南の森

## 内容 植樹後には観察を行い興味を深める

植樹場所である幌南の森は藻岩山スキー場の斜面の一角(藻岩山8合目、11.8ha)、コースとコースの間にあり、バスやロープウェイを使って移動している。植樹活動を行っているのは5年生の児童である。7月初旬にPTAの協力を得て、5年生とその保護者がカミネッコン(再生ダンボール製のポットに土を入れ苗を植えたもの)を一人2個以上完成させ、土と根が十分になじんだ9月末~10月に植樹している。

植樹活動の他、3~6年生が学年ごとにテーマをもって幌南の森での学習を行っている。

### 幌南の森での学習内容

#### 3年生 〈植物・生き物〉

幌南の森で大発見

#### 4年生 〈森そのもの〉

幌南の森 魅力発信

#### 5年生 〈人々の取組〉

命を守る幌南の森

#### 6年生 〈人と生き物のつながり〉

森から私たちの生活を見てみると...

また植樹するだけでなく、6年生は森の樹木に名前や説明を書いた「樹名板」や鳥、小動物のための巣箱を毎年設置している。この樹名板について、市民の方から「木の説明が書いてあり、とてもいいですね」と電話をいただいたこともあった。

幌南の森には、ボランティアの方が作った遊歩道もあり、散策や観察もできる。3、4年生が森林の観察に行った時には、森の中で「水源」を発見し、自然界の中で苗木に十分な水分があることを知り、子供たちの「森・自然の循環・環境」に対する興味は一段と深まった。

春には、参加希望の児童と保護者による、登山をして植樹後の観察会を行った。この時の参加数は11組。自分たちの学校の名前がついた植樹場所で、小さな苗から成長していくようすを確認できることは、自然環境を整えるためには「長い期間を要する」ということを学ぶよい機会である。



巣箱を設置しているところ



幌南の森に設置した樹名板

## 今後 「ビオトープ」と「幌南の森」の二つを比較して理解を深める

自分たちの学校の名前を冠した森で遊び、植樹し、観察することで、児童は森や自然に親しみ、関心を深め、森や自然の大切さを理解するようになった。

本校には平成18年に札幌市の学校ビオトープづくり支援事業として設置されたビオトープがある。理科の学習などで、ビオトープの樹木と森の木を比較観察する取組なども積極的に行っている。日常的に観察できるビオトープと、新鮮な体験ができる幌南の森、この二つをとおして、より深い環境理解につながるような取組を今後も進めていきたい。

なお、幌南の森での活動から発展して、本校は手稲山口緑地の植樹活動にも参加することになった。PTAも参加し、家庭でも緑を増やすことについての関心が高まっている。



植樹祭のようす

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪

実施校から  
メッセージ

「遊々の森」植樹活動は、平成16年、台風18号の被害によって倒木した跡地に植樹をして、緑を増やそうという植樹活動です。5年契約で行われる活動ですが、延長することもできるため、今後も活動を継続していきたいと考えています。